

「第4回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	まちづくりを応援する会（鹿屋土木協同組合）
日時	平成26年7月25日（金）15時30分から17時00分まで
場所	鹿屋市役所 602会議室
参加者	まちづくりを応援する会（北郷 稔 様 外10名）
	市長、原口副市長、福井副市長、市長公室長、道路建設課長、 契約検査室長、広報広聴課長

1 道路の維持管理等契約の組合による受託について

提案：鹿屋市内に道路が沢山あるが、組合員（個々の業者）として維持管理していくのは大変なので、組合として路線の契約が出来ないか検討していただきたい。

また、本組合については、かつて20社程度の組合であったが、現在は11社となり厳しい状況となっている。このような中、市の道路建設課等からの依頼については作業員を確保しており、緊急のときは我々組合も24時間いつでも対応しているので、そういったことも考慮しつつ組合としての契約も検討していただきたい。

回答：道路の維持管理については、町内会や市民の方から要望のあった場所や、職員がパトロールで見つけた場所など年間を通じて対応している。

市直営の道路作業員については、本庁に4班、支所に3班の1班3～4人体制で対応しつつ、側溝や舗装の修繕については建設業界の皆さんに、雑草伐採については建設業者やシルバー人材センター、町内会にもお願いし、市民の安全安心の確保に努めている。また、緊急的な用件のあった際は、災害時の応援協定により、組合の皆様の機動力をお借りし対応している。

一括した年間委託を同組合が受託できないかについては、他の業界団体等もあることから、それぞれの意欲や状況を含め、受託できる組織としてなりえるのか検討する必要がある。

私の思いとしては、市道の総延長約1,486kmを考えると相当なボリュームがあるので、直営で作業している中でも除草伐採など一括してできるものは、民間にお願いできないか考えていきたい。

回答：1年間に1,500件程度の道路に関する苦情や要望がある。その内、約150件が町内会長等からの要望であり、概算事業費は約160,000千円である。

舗装・側溝の修繕については、整備件数が約110件で、約130,000千円の事業費。

緊急的な修繕については、修繕件数が約150件で、約16,000千円の事業費。

除草伐採等については、市全域で、40,500千円程度を費やして、道路等の維持管理を行っている。

なお、平成25年度は、61件9,500千円程度を同組合にお願いしている。

提案：組合への委託については、全部の路線というわけではなく、試験的に一部の路線をやらせていただけないかと考えている。

回答：官公需適格組合制度というものもあるが、制度の内容をクリアしながらではあるものの、相当な数を委託しているのは事実であり、直営だけでは出来ないことや民間の技術力が必要な場合もあるので、広げられる部分は民間委託等で皆さんにお願いしていきたいと考えている。
(官公需適格組合制度：中小企業に官公需の受注機会をできるだけ多く与えるために講ずべき措置等について定めたもの。)

2 市内業者への業務委託について

提案：市に登録された指名業者は数が多いが、市からの発注件数は少ないこともあり、今後、どうやって生き残っていくか心配である。

行政も予算がないと思うので、今後、橋梁については、新設よりも補修の方に流れていくと思うが、簡単な補修や緊急的なものは対応できるので、自分たちにも委託業務をお願いしたい。

なお、大きな業者でないと出来ない部分は、自分たちも下請けとして入り、技術を磨いていきたい。

回答：市内には、市道橋が 455 橋あり、これらを計画的に維持管理していくため平成 24 年度に橋梁の長寿命化修繕計画を策定し、26 年度に実施設計、27 年度から補修工事を行うこととしており、今後 10 年間で 115 橋の補修が必要と考えている。これまでも、補修については地元の皆様をお願いしてきたが、今後も引き続き皆さんにお願いできるよう考えている。

また、補修工事は足場を組むこともあり、入札においては、とび・土工・コンクリート工事業の建設業許可を有する業者の中から、格付区分に従ってお願いしている。より専門的な部分も出てくると考えているが、なるべく地元業者が受注できるように検討したい。

回答：22 年度は、「きめ細かな交付金事業」で、既存橋の補修工事を 6 件発注して、同組合には 2 件受託していただいている。

今後、橋梁の長寿命化のため補修をしていかないといけないが、とび・土工・コンクリート工事業の資格がないとできない。市内の登録業者では、137 社のうち 49 社が資格を有しているが、今後を見据えて資格を取得していただきたい。

提案：とび・土工・コンクリート工事業の中でも格付けを行うのか。また、資格については、合算した土木一式の資格でよいのか。

回答：とび・土工・コンクリート工事業で格付けは行わず、今の建設業の格付けの中で、とび・土工・コンクリート工事業の資格、施工能力を持っているか確認する。なぜ、とび・土工が必要かというと、足場を作るのに許可を持っていないといけないからである。

また、本来は橋梁の補修は専門業者だが、なるべく地元の業者さんに請け負っていただきたいので、地元の土木業者に受けていただきつつ専門的な部分は下請けで入っていただきたい。また、更に専門的な部分については、分離分割という方法で、専門業者と地元業者にそれぞれお願いしたい。

3 土木業界に係る行政の対応について

提案：生き残るために何をするか。規制緩和後、誰でも参加できるのはありがたいが、専門外の業者がどんな入札にも入ってきて、道路建設課も大変だと思うので、縦割りだけでなく、道路建設課や財政課など行政の横の連携も必要と考える。

回答：大きな業者が落札すると、地元の専門業者が仕事を取れず下請けに回ってしまう。このことは、入札制度にも問題がある。職員にも他の市町村と本市がどう違うのか、現状分析を行うように指示している。来年の格付けまでに、しっかりと勉強をして実施したいと考えている。

他にも、今の制度の中で疑問があれば、お話いただきたい。

提案：今のランキングの中で、仕事をもらっても現場監督だけ置いて、丸投げをする人たちもいる。

回答：一括丸投げは、法律で禁止されている。

提案：大きな業者は、自分の得意な工事しかせず、その他の入札には参加しないという状況がある。

回答：経営事項審査を重点に資格審査をしているが、結果として、土木、水道など何でも工事をするとう評価点数が高くなり、単独でしかやっていないところのランクが下がるという課題もあることから、現在見直しをしている。

回答：専門業者がこの地域に生き残り、市外の仕事を受注して外貨を稼いできてもらわないといけない。どういう形がよいのか提案していただきたい。

提案：鹿屋市の入札制度は、発注が金曜日で、土日ははさみ火曜日の午前中までの申込になっている。週始めの仕事が大変になるので、申込にもう少し余裕がほしい。理想を言えば、月曜日か火曜日に公告して、その週の金曜日あたりに申し込むという形をお願いしたい。

なお、国や県は特に日程は決まっておらず、一定してないようである。

回答：業界の皆さんの総意であれば、検討させていただきたい。

提案：鹿屋市の入札制度に係る業者の格付けの点数について、どのように考えているのか教えて欲しい。

回答：契約検査室を昨年設置し、全ての土木工事を公正公平に検査・評定して結果を通知してきた。今後、発注者・受注者の技術力アップや、工事成績評定の格付けへの生かし方、また、表彰制度の必要性も併せて検討していきたい。

回答：高い技術を持った業者の育成は、攻めの建設業に必要である。工事の発注が減っている中で難しいところもあるが、成績評価をしっかりと行い、優良技術者の育成に取り組んでいきたい。

提案：工事成績や工事实績を、鹿屋市は過去4年間で見ているが、その間の実績がない場合、過去の実績がある年までさかのぼれるのか。県は3年でなければ5年の平均をみるようだ。

また、例えばCランクの30社位の中で、10数件の仕事しかなければ、実績もあげられないということもある。

回答：皆さんの思いもあると思うが、県と同様に実績を5年という形にすぐに変えてしまうことは難しい部分もあるので、バランスをみながら前向きに検討させていただきたい。

4 土木業界への雇用促進について

提案：土木建設業が落ち込んでから、皆さんが我が子をこの業界に入れなくなった。高校等の土木建設専門の学級数も減ってきており、若手を育てる環境が厳しい。私も学校訪問をしているが、若い子達がこの業界に来ないと技術の継承も難しく衰退していくので、行政からもアドバイスをいただきたい。

回答：今日は午前中、職安の方と話をして驚いたが、新卒の求人はあるものの、仕事の内容が合わずに県外に出る人が多い。建設や農業が若い人たちにとって魅力のある職場にならないと就職先として難しいと思うが、職を求めている若い人たちが、将来一本立ちをするため、5年から10年は下積みだという思いを持たないと、結局辞めてしまい、その繰り返しになると思う。

以前、社長さん達に話を聞く機会があったが、採用についてはいつでも門は開いているものの、新卒の皆さんが会社訪問をした時に、給料は？休みは？福利厚生は？といったことだけ話し、そこに思いも志もなく直ぐに辞めてしまうとの話を聞いた。ひょっとすると、給料がたくさん出れば仕事がきついても頑張るのかもしれないが。

県も国も、建設業の人材確保に努めており、組織的に業界全体で取り組む必要があるのではないかと考えている。一つには、子供たちに職場体験などで、作る喜

びや、お客様から感謝される気持ちを体験させてあげれば、仕事や皆さんの業界に対する興味や関心が出てくるのではないかと思う。色々な機会を捉えて、高校などとも連携して職場体験などを実施すればよいと考えている。

また、UターンやIターンの人たちの人材確保も、併せて取り組んでいければよいと考えている。

提案：若者育成という観点で、中学生の進路について先生から依頼があり、3回ほど講話にしている。自分たちの現場を生の声で話すと、子供たちはしっかり聞いてくる。特に、男の子はきついことでも、やりたいという思いがあればやる。

5 将来の土木建築事業について

提案：土木建築事業について、行政として10年後はどのように見ているか聞きたい。

回答：公共事業は、社会資本の整備という意味があるが、もう一方で景気対策の側面もある。予算的に当初予算は大きくはないものの、今後、国の景気対策で大きな予算がつくことも想定される。そういった意味では、ベースの事業が必要であり、景気対策としても、6月補正予算で前年度に比べ1割のばし55億円ほどになっている。

公共事業は、その時々々の景気や情勢でも変わるが、無くなることはない。しかし、全国的に見て発注件数は少なくなってきており、年に1回も落札できないという企業もある。

市からの発注件数は半分になったものの、業者は17%しか減っていないことから、今後どう持ちこたえていくかは、技術力や経営力が大事だと思うので、市としても入札制度や格付けなど検討しながら業界の皆様を応援していきたい。

提案：野球場の新築はないのか。

回答：今回、スポーツ施設の再配置計画を作ったところであり、西原の運動公園はサッカー場と運動場。串良の平和公園を野球。中央公園をテニスという考え方で計画し、今後は財源の確保をしていく予定である。

また、串良平和公園に野球の室内練習場を作るが、串間市にはすばらしい施設があるのに鹿屋市にはない。これがないとなかなか合宿に来てもらえないので、施設整備を行いスポーツ合宿を呼びたい。

提案：国体について、鹿屋市で開催される競技種目はどうなっているか。

回答：競技は、成年女子バレー、ボート、自転車ロードレース、これは鹿屋でやることが決まっている。

提案：そういった部分のインフラ整備はどうなっているか。

回答：ボート競技会場である大隅湖は、浚渫する必要があると思う。鹿屋市の体育館は昨年整備済である。（浚渫：湖底の土砂を堀削すること。）